

日風園

〈高知県立歴史民俗資料館だより・おこうふうじつ〉

第68号 2009年7月1日

資料見聞

茶運び人形

「人形の持つ居る茶臺ちやだいのうゑにちやわんを置けば人形向ふへ行く。茶碗を取れば行き止る。また茶わんをおけばあとへ見かへりて元の所へもどる也。其内からくりの次第左のごとし」

細川半蔵著『機巧図彙』上巻の冒頭には茶運び人形の動きについてこのように書かれています。

現在、当館蔵の茶運び人形は中の機構部分の傷みにより動かすことができませんが、復元された茶運び人形の動きは『機巧図彙』に書かれたとおりで、往時の動きを再現してくれます。

ぜんまいを回し、人形の手の上の茶托ちやたくに茶碗を載せると、その重みで行司ぎょうじ



復元された茶運び人形の内部機構
スタジオぎえもん製作

輪わにかかっていたストッパーの棒が外れて歯車が回転し、首を少し振りながら袴の下から見える足先を上下させ、そろりそろりと歩を進めます。お客にお茶を差し上げたあと、向きを変えて元の場所へ返ってきます。

てきます。

右の写真の茶運

び人形は細川半蔵頼直作と伝わるものです。半蔵は寛

延（一七四八）

一七五〇のころ、

土佐藩長岡郡西野

地村上末松の郷士の家に生まれ、儒学・天文学等を学び、江戸にて幕府の改暦の仕事にも加わりました。『機巧図彙』を著しましたが、その刊行を見届けることなく寛政八年（一七九六）、この世を去っています。

『機巧図彙』の図と比べると当館蔵

の茶運び人形の調速部は後方にあり、また前輪の仕組みも異なっています。

『機巧図彙』に「ぜんまいは鯨のひれにて造るべし」とありますが、この人

形のぜんまいは失われていて、肩部分の腕の戻しバネに鯨のヒゲが残っています。

（曾我）

企画展

復元！からくりの世界

現代のからくり人形師 半屋春光氏に聞く―

会期 平成21年8月1日(土) ～平成21年8月31日(月)

聞き手・主任学芸員 曾我満子

今夏、当館では企画展「復元！からくりの世界」を開催し、現代のロボット工学にも通じるといわれる江戸時代の技術について理解していただく機会となればと考えています。展示では土佐藩出身の細川半蔵が著した『機巧図彙』をもとに復元されたからくり人形を中心にご紹介します。展示するからくり人形は現代のからくり人形師、半屋春光さんが製作したものです。半屋さんの工房でからくりのこと、今回の展示会についてお話をさせていただきます。

◆半屋さんはどういつきつかけでからくり人形に出会ったのですか？また、いつからからくり人形製作に取り組んでおられますか？



半屋春光氏 工房内にて



細川半蔵著『機巧図彙』日本最古の機械工学書

立川昭二さんの著書『からくり』に紹介されていた『機巧図彙』を昭和四〇年代後半に読んだのがきっかけです。この本に出会う前は西洋のからくり人形、オートマタに興味がありました。オートマタの作家が日本にいないということと資料を集めているうちに『機巧図彙』に出会い、江戸時代の日本にからくりがあったこと、それは継承されないで失われた技術であることを知り、その途絶えたからくりの技術の水準を自分の手で確かめたいと思ったからです。

この道に入るまでは通産省（現在は経済産業省）の工業技術院の研究所に勤務していました。そこでは、戦後ゼロになった分野の技術開発を国が率先して行っていました。その中で私は機械試験場で摩擦溶接の研究を行いました。

私は群馬県の生まれで幼い頃、水車や精米所のベルトが回るのを興味をもって見ていました。とにかく回るものが好きでした。今思えば子どものころに受けた印象がその後の人生を決めたのだと思います。今の子どもにとつて例えばおもちゃを壊して中を見るなどは有意義なことと思います。

◆これまでお作りになった人形の数、種類はどのくらいありますか？



半屋さんによって復元された品玉人形

千体にはなると思っています。『機巧図彙』に載っている人形はもちろんのこと、オリジナルのからくり人形も製作しています。

◆からくりの魅力はどのようなところにあると思いますか？

どのような仕組みでなぜ動くのかというところですね。そしてモノを作った時の達成感は何ものにも代え難いものがあります。



茶運び人形の機構を見せていただきました。

◆半屋さんご自身は高知県との関わりはありますか？

高知は時代を超えた師匠ともいえます。細川半蔵の出身地だということですね。

◆こちらの工房では何人の方がお仕事をされていますか？部品ごとに役割分担されているのでしょうか？

大きく分けて人形の衣装専門の職人、人形の頭を作る職人、内部の構造を作る職人と三人は必要です。

◆『機巧図彙』はどういう意図で書かれたのだと思いますか？

細川半蔵は理学の知識を『機巧図彙』

で解説し、いわば当時の科学ジャーナリストではなかっただろうかとは私に考えています。九州久留米出身の田中久重、金沢の大野弁吉は半蔵より後の生まれで『機巧図彙』を読み、その影響を受けたのは間違いなく、からくりの啓蒙書といえるでしょう。

◆当館に細川半蔵作と伝わる人形と時計がありますが、全国にも半蔵作と伝わるものがあると聞いていますが。

あくまで「伝」であり、製作者のサインなどが発見されない限りなんともいえません。旧家で古いからくり人形が大事に保管されているという噂をきいたことはあります。

◆『機巧図彙』を読み解いて、その通りに人形は作れましたか？

おかしいと思う部分もありました。図面の補正は必要です。試行錯誤のうえ、『機巧図彙』は書かれたと思います。例えば人形の首を動かす紐を『機巧図彙』のとおりに取りつけるとすぐに磨り切れてしまいます。脚部分も『機巧図彙』のとおりに付けると外股歩きになつてしまいます。機構は『機巧図彙』のままでもよいかも細かな部分では修正も必要です。設計図として完璧でないところもあります。

◆江戸時代に機構部分を作る道具はどんなものだったのでしょうか？

手で作ったのか、機械で作ったのか

ということではいえない、今のようない機械は使っていません。手で作るとすればどのような方法で作ったのか定かではありません。現在、例えば歯車を全て手作業で作るとなるととても難しい作業です。和時計については手作業で作った痕跡があります。目で見て厚さが変化していたりとかせがあり、道具も工夫しながら作ったのだと思います。



半屋さんの工房内の工作機械

歯車を六〇に分割するなど定規を使って江戸時代の技術で充分可能でした。丸を分割したのちに彫っていった歯車をつくる方法もありますが、ピンを埋め込んでつなぎ合わせる形で作ると非常にかみ合いがよいです。のちに伊能忠敬が量程車（道程を測る道具）を作る時にこの歯型が使われています。日本では提灯歯車と呼ばれているもの



製作中の歯車

です。現代にも通じる技法です。わたしは単なる復元ではなく、時代性に沿った形で復元していきたいと考えています。

◆半蔵は『機巧図彙』を著して世の人々に何を知らせたかったのだと思いますか？

『機巧図彙』は三版もされていて当時としては大変なベストセラーです。『機巧図彙』の二三年前に『解体新書』が出版されています。実証的な考え、探求心は止めようがなく、半蔵はそういうことを書きたかったのだらうと思います。本質を詳らかにしたい一心で書いたのでしょう。最初に書いたのは上下の二巻だったと思いますが、時計のことを知らないとかからくりについては書けないから後から首巻として時計のところを付け加えて書いたのだと思います。

◆からくり人形師のお立場から今回の展示会開催の意義についてお話を

い。

からくり人形は自動化された人形ということで現代のロボットに通じるところという見方があります。でもちよつと原点に返って、人間はなぜ人形を作るのかということについて考えてみて下さい。最初は神の意思をうかがうため、災いを人形に封じ込めて人が幸福になりたいがために人形を作りました。次の段階では人形が動いた方がより神の意思を伝えることになり。そのうち荒ぶる神を鎮め、次に芸能化し、だんだん見せ物的になりお祭りにも使われるようになりました。本来、人形は神聖な世界のものでした。飛騨高山や名古屋の山車からくりはその名残をとどめるものでしょう。次に手動から自動の段階へと進みます。それが人形に対して神聖なものから世俗的なものへと人々の意識に変化を起しました。『機巧図彙』にはからくり人形について「もてあそぶもの」という記述があります。技術の変化が人々の精神世界の変化をもたらしたと考えられます。最後にからくり人形がよくいわれる「ロボットの原点」という点。人にお茶を出すというのは人と機械がやりとりをすることで、これはとても日本的な発想です。以前、フランスの新聞「リベラシオン」がロボット特集を組んだことがあります。日本人はなぜ、人

の形をした人形にこだわるのか、日本人のロボットに対する思い入れはあるのか？という点について記述していただきました。

◆展示では半屋さんが復元されたからくり人形のうち、どのようなからくり人形が出品されますか？

半蔵が『機巧図彙』に記載したからくり人形の復元品を主に展示します。それと時計、私の工房でオリジナル製作したからくり人形、機構部品などです。

◆今回の展示の見所はどのようなところにありますか？

今回の展示ではガラス越しに展示資料を見るのみでなく、観覧者が実際に触ってそのメカニズム等を理解してほしいと思っております。からくり人形には鯨ヒゲが使われていて、材質からまた違った方向へ興味が広がってくればと思います。そのため知識も必要になってきます。高知の子どもたちも人形を自分たちで作ってみると、どういふ木を使うかということで、木の堅さ・軟らかさから木の種類へと興味が広がっていくだろうと思います。

土佐に於ける細川半蔵と同じく、福岡県久留米市で田中久重を知っているかというところに地元で知名度は高くありません。展示会を通じて地域振興にも貢献できると思います。

それと今日の環境問題。エネルギーの制御がいかに重要か、そのシステムをいかに作るかというヒントをからくりは与えてくれます。半蔵からのメッセージとして受け止めたものです。からくりに貢献した半蔵たち古の人を単にすごいで終わらせず、その知恵に学んで未来にメッセージを送るべきだと思います。私は技術・知識・その背景にあるものを正しく受け継ぎ未来に活かしていかなければならないと思っています。そのためにも今回の展示会などで博物館とも連携し有効に広く情報発信すべきだと思っています。

◆シンポジウムの内容についてお話しください。

「からくり人形の復元について」や「半蔵のからくり」などがテーマになる予定です。メンバーですが、日本設計工学会の分科会から出発した日本メカニズムアーツ研究会の方々にお話いただきます。大学の理工系の先生方、企業の技術者などがそれぞれの分野からお話することになります。からくりを設計工学の立場から解析し、誰もがからくりを理解できる情報交換会として「からくり」を学問にするシンポジウムとしたいです。

◆「からくり人形芝居」の内容について教えてください。

竹田近江のからくり人形芝居の再現

となります。完全復元ではなくて、お囃子と語りは省略したものです。簡単にいえば時代設定のなかでからくり人形が出てくるというものです。五場面に分かれて、①安土桃山時代の設定で、秀吉の黄金の茶室の中で松王丸という茶運び人形が利休を接待する。②から④は唐子の三兄弟が登場し、②は長男が段返り、③は品玉人形の次男、④は三男が涼風車を回す、⑤明治時代のハイカラ人形が女学校へ通う、というものです。詳細は当日までのお楽しみという事です。

◆「からくり人形を作ろう」では何を素材にどのような人形を作るのでしょうか？

私が開発した「スイマー人形」を作ります。材料は木と紐です。加工済みのパーツをご用意しますので、組み立てるのが主な作業になります。保護者の方とご一緒ならば小学校一年生くらいからご参加いただけます。

◆「からくり人形の動きを見てみよう！」ではどのような人形が登場しますか？

茶運び人形、段返り人形、品玉人形、スイマー人形の予定です。脚と頭の機構、転回の模型、エネルギーの制御の模型なども解説しながら約二五分間です。

◆日本人とモノづくりという視点で見



ワクワクワーク「からくり人形を作ろう」で作るスイマー人形です。

ると半蔵の生きた江戸時代はどういう時代だと思えますか？

半蔵が生きた時代は、ロシアのラクスマン来航など外国からの泰平を破る動きのあった時代です。それより前の徳川吉宗の時代はオランダから書物もさかんに入ってきていました。蘭学など西洋の新しい文化に触れるともう人々の興味の流れは止められません。日本が実証主義の時代に進み始め、科学的なものに目が開かれた時代でした。航海術や医学においてもそうでした。物として作り、物事の本質を知りたいという思いがわき上がってきた時代です。そしてまさに中世から近代への架け橋となった時代です。江戸時代の前期は中世の名残を留めていたが、江戸時代の後半になるといつまでもそのままではいられなくて、近代への用意を始めたといえましょう。

文化庁主催 秋の特別展

開催期間10月3日(土)～11月9日(月)

「発掘された日本列島2009」

のご案内

中・四国、九州では、高知のみで開催

今年、高知県立歴史民俗資料館で文化庁が主催する巡回展「発掘された日本列島2009」展が開催されることとなりました。この展示会は、「近年の全国各地で注目される発掘調査の成果を広く公開し、多くの皆様に埋蔵文化財についての理解を一層深めていただくことを目的」として開催されています。展示は東京都江戸東京博物館（六月二〇日～八月二日）を皮切りに、大阪府立近つ飛鳥博物館（八月一三日～九月二三日）、そして一〇月三日から十一月九日に高知県立歴史民俗資料館で開催されます。中国・四国・九州

の展示と検認作業で張りつめていました。そのなかから貴重な資料をいくつか紹介したいと思います。二〇〇七年に長野県中野市柳沢遺跡で弥生時代中期後半～後期の青銅器の銅戈と銅鐸を埋納した遺構が発見されました。銅戈が七本、銅鐸一個がみつ

かりました。青銅器を埋納した最も東の例として注目されています。この柳沢遺跡からは銅戈二本が展示されます。中・四国では初めての公開となります。北信濃の弥生の世界に触れる機会です。古墳時代では、和歌山県和歌山市の特別史跡岩橋千塚古墳群大日山三五号墳（六世紀前半）から、表と裏の顔をもつ埴輪がやってきます。オモテの顔とウラの顔、まあ人生いろいろでしょう。この顔あなたはどうみえますか。他に翼を広げた鳥形埴輪もやってきます。翼を大きく広げた埴輪は珍しいものです。翼は約二五cm、幅二二cm位です。鷹ともみられています。実にかわいらしい顔です。

さて、次は中世の資料から一つ紹介しましょう。今、大河ドラマで「天地人」が放映されています。上杉謙信没後の後継者をめぐるとの問題で御館の乱の舞台となったのが新潟県妙高市の史跡鯨ヶ尾城跡です。景虎終焉の地から、こんなものが出土するとは思っても

しませんでした。焼けて黒くなっており、布目圧痕も残っています。これは炭化したお握りなのです。五～九cmくらいの大きさです。最後に振る舞われたのでしょうか。平城遷都一三〇〇年を迎えるにあたり復原された巨大な金色の鴟尾も登場、せんとくんも登場するかも知れません。

(岡本)

その後、栃木県のさくら市ミュージアム「荒井寛方記念館」（十一月二〇日～十二月二七日）、愛知県の安城市歴史博物館（平成二二年一月一六日～二月二八日）と巡回していきます。江戸東京博物館では、展示作業が六月中旬より行われました。その展示準備の会場に当館からも学芸員が資料の確認作業の為に参加しました。展示会場の空気は、貴重な資料群約六〇〇点



両面人物埴輪の頭部（二つの顔をもつ人物埴輪）和歌山県教育委員会蔵



大日山35号墳

なものが出土するとは思っても

あたらしい日本の姿、発見!

文化庁

発掘された日本列島2009

重要な遺跡・遺物の最新発掘情報

特別史跡平城宮跡 第一次大規模発掘調査の成果

東京都江戸東京博物館
6月20日(土)～8月2日(月)

さくら市ミュージアム
11月20日(土)～12月27日(日)

大阪府立近つ飛鳥博物館
8月1日(土)～9月23日(日)

安城市歴史博物館
10月3日(土)～11月9日(月)

高知県立歴史民俗資料館
10月3日(土)～11月9日(月)



炭化お握り 鯨ヶ尾城跡 妙高市教育委員会蔵

考古

岡豊山の遺跡 ③岡豊山古墳の発見



岡豊城跡 大正11年

岡豊山に古墳があったと思われる場所は、碑の建っている四ノ段南西部です。碑の建立されている部分はマウンド状をなし、石が露頭しています。古墳の石室などに用いられた石は、碑の工事どこかに片付けられたのでしょうか。それとも岡豊城築城時にすでに一部古墳は壊されていたのでしょうか。記録が残っていないのでわかりません。公園化される前の岡豊城跡の姿は、どのような様相をしていたのでしょうか。左に掲載した写真は、大正十一年（一九二二）八月の書き込みのある写真です。土佐・郷土史の父と呼ばれる寺石正路の写真集の中に貼られていた貴重な写真です。南から撮影したもので

すが、全体が撮影されていないのが、少し残念です。岡豊山の様子をよく留めている写真です。岡豊山には木がほとんどないことがわかります。そして、右の山下腹に既に畑が作られていることがわかります。写真も岡豊山の歴史を伝える貴重な証人です。（岡本）

歴史

魅力的な兜の世界

中世の古文書が専門の私ですが、近頃本業を脇において、様々な分野に手を染めています。昨年の「鯉」にはじまって、「ブラジル移民」、「絵葉書」、「幕末の志士」と、めまぐるしく調査対象を変えた挙げ句、本年は「兜」という訳です。

兜展では、(社)日本甲冑武具研究保存会広島県支部の出崎智晴氏に手取り足取り兜の見方を教わりました。実に奥深い世界で、これまで当たり前の様に展示してきた当館所蔵の兜なども、漆の色や、飾り金具のデザイン、眉庇の角度等に注目して見直してみると、目から鱗。いくらでも新しいポイントがあることに気付かされました。

一番驚いたのは、長宗我部信親所用といわれる兜が鉄製ではなく、練革製だったこと。また、元親所用と伝わる鉄黒漆塗兜の内眉庇には、実は朱漆がかかっていたことにも仰天しました。視点を変えることで初めて見えてくる世界がそこにあるのです。

(野本)



伝 福留半右衛門所用
(『大津村史』より転載)

十年前からずっと探している兜です。所蔵先等を知っている方がおられましたら是非ご一報ください。

民俗

ニューヨークで 陰陽道シンポジウム

アメリカのコロンビア大学からメールを頂いた時は正直驚きました。四月三〇日から五月三日まで日本宗教学文化センターが主催で陰陽道シンポジウムを開くので参加しませんか、というのです。英語はしゃべれないし、長時間の飛行機も大変そう。でも開催趣旨を読むと、「いざなぎ流」に大きな関心が集まっているようです。

「世界にいざなぎ流を伝えるべきだ」との館長の力強い声もあり、参加決定となりました。

緊張しながら到着したニューヨークですが、私達がいた辺りは落ち着いた雰囲気。言葉の問題も日本人得意の団体行動でクリア。歴史のあるキャンパスで、日本と海外の研究者十三人が密度濃い発表をおこない、連日熱心な議論が続きました。私もいざなぎ流のビデオ上映をおこない、天の神に関して発表しました。

外国の方が「いざなぎ流」をネタに議論しているのは不思議な気分でした。いざなぎ流研究もいよいよ国際的になってきたということでしょう。（梅野）



れきみんニュース

好評、出張体験学習



二〇〇二年に総合的な学習の時間が導入されたのをきっかけとして、近年、学校教育の中で博物館施設が積極的に活用されるようになってきました。高知県立歴史民俗資料館にも、毎年たくさんの方々が来館してくれています。しかしながら、時間的・距離的に遠く、来館が困難な学校があるかと思えます。この春「出張体験学習・出張授業」のご案内を県内の小中学校に送付しました。当館職員が希望、依頼のあった学校に資料や道具を持参し、体験学習の指導・協力を行い行っています。わずか、二週間の間に社会科、総合学習、親子行事等で西は宿毛市・土佐清水市から東は室戸市、地元の南国市、高知市周辺に至るまでの二〇校からリクエストがありました。五月七日の五台山小学校を皮切りに出張授業がスタートしました。①火おこし体験②勾玉づくり③昔あそび④よろいかぶとを身につけよう⑤昔のくらしの道具⑥歴史学習の共同授業が主な内容になっています。周辺校で実施の際には、歴史館のカルチャーサポーターの方々の支援を頂き当館の職員と一緒に学習の指導・補助をおこなっています。

実施された学校からは、体験的な学習を通して実物資料に触れることにより、児童・生徒が興味を持つきっかけにもなり、より学習を深めることができたという好評をいただいています。

今後、学習指導要領の変更もあり、学校から出張体験学習のニーズは、増加してゆきそうです。



出張体験学習 高知市立九重小学校

(寺川)

事業課通信

動く「若武者もとちか君」が登場!



当館のマスコット・キャラクターの若武者もとちか君が、着ぐるみとなって登場しました。五月三日の「れきみんの日」に初見参してお客様に人気でした。小さなお子さんからご年配の方まで、記念写真にひっぱりだこでした。

高知県の尾崎知事を表敬訪問し、忙しい時間を割いていただいた知事と戦国武将ブームに乗って、土佐の長宗我部氏を全国区にしますと笑顔で歓談しました。

もとちか君はこれからどんどん外に出て行って、岡豊山と歴史館にお客様においでいただくための営業活動を行いますので、よろしくお願ひします。

(猪野)

岡豊山フォトコンテスト 入賞作品

毎年春の桜の時期に恒例となった「岡豊山フォトコンテスト」の今年の入賞者が決定しましたので、ご紹介をします。

今年の最優秀作品は、いの町の片岡鷹介さんの作品「春畝(しゅんぼ)」です。岡豊山の北の山から桜の岡豊山を見事に捕らえています。手前に畑を耕すご婦人を入れたことにより、のどかでどこか懐かしい風景を思い起こす作品となっています。審査員一同文句なしの最優秀作品となりました。次回は優秀作品二点をご紹介します。

(猪野)



平成21年7月～9月の催し

企画展

復元! からくりの世界

平成21年8月1日(土)～8月31日(月)

土佐藩出身の細川半蔵が著した『機巧図彙』をもとに復元された



茶運び人形(右は機構模型)

た茶運び人形、段返り人形他、からくり人形の仕組みについても歯車模型などを展示。人形を動かしてその動きを間近でご覧いただけるコーナーも設け、江戸時代の技術の一端を体感していただけます。この夏休みはぜひ歴史館へ。

シンポジウム ※電話等で要予約(先着80名)

「からくりと高知の森林鉄道」

8月1日(土) 13:00～16:00

講師: 半屋春光氏(からくり人形師) 他5名を予定。

公演 ※椅子席は電話等で要予約(各先着30名)

「からくり人形芝居」

8月2日(日) 10:00～、13:00～、15:00～

さまざまな時代設定のなかでからくり人形がその動きを見せます。人形のメカニズムについての解説もあります。

ワクワクワーク

「からくり人形の動きを見てみよう！」

8月1・2・8・9・15・16・22・23・29・30日(土・日)
14:00～14:30

「からくり人形を作ろう」

8月22日(土) 13:00～16:00

木の部品と紐でスイマー人形を作ります。小学校中学年以下のお子様は大人が付き添いください。

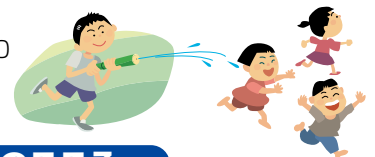
※電話等で要予約(先着30名)

参加費(観覧料込) 一般2,500円、高校生以下2,000円

「水鉄砲を作ろう」

8月23日(日) 10:00～12:00

※電話等で要予約(先着30名)



高知の食文化を味わう～食のこころ～

毎月第三土曜日 11:00～13:00

申込要 参加費2,500円程度

前月10日に申込受付開始

詳細はお問い合わせ下さい。

次回特別展の予定

特別展 「発掘された日本列島2009」

2009年10月3日(土)～11月9日(月)

文化庁主催の巡回展「発掘された日本列島2009」がこの秋歴史館にやってきます!

近年、重要な発見があった全国の20遺跡から約600点の出土遺物が歴史館で展示されます。

展示会場は3階総合展示室と1階企画展示室です。

巡回展は、東京都・大阪府・高知県・栃木県・静岡県のみを巡回します。

ぜひ、この秋は岡豊山に足をお運びください。

特別展

「兜-もののふの美意識-」

入館記念プレゼント

で当選おめでとうございます。

兜展開催中にアンケートで申し込みされた1,618名の中より1名様が決定!!驚異的な倍率をはねのけ、見事兜を獲得されたのは、高知市にお住まいの横山喜清さんでした。



当選者を選ぶ東敏夫氏(兜の提供者)と社日本甲冑武具研究保存会広島県支部の皆さん(6/22)。

研究紀要・収蔵資料目録刊行しました

『高知県立歴史民俗資料館研究紀要』第17号
400円

『収蔵資料目録第14集 寺石正路関係資料目録Ⅲ
考古分野 古鏡・拓本編』 400円

臨時休館のお知らせ

平成21年6月22日～7月7日・9月27日～10月2日
特別展の資料搬入・搬出と収蔵庫燻蒸のため休館します。

長期休館のお知らせ

平成21年11月10日～
平成22年3月20日
展示室改修工事のため休館します。

| | | | |
|--------------------|--------------------------------------|-------------------|--------------------------|
| 岡豊風日(おこうふうじつ) 第68号 | 平成二十一年七月一日 | 編集・発行 高知県立歴史民俗資料館 | 〒783-0044 南国市岡豊町八幡1099-1 |
| TEL 0888662221 | FAX 0888662211 | 開館時間 午前9時～午後5時 | 休館日 年末年始12月27日～1月1日 |
| 観覧料 | 通常期(常設展)大人(18才以上) 450円・団体(20人以上)360円 | 臨時休館あり | 無料 |
| 料 | (企画展・特別展)常設展示込500円 | ・団体(20人以上)400円 | ・高校生以下、高知県及び高知市長 |
| 無 | ・寿手帳所持者、療育手帳・身体障 | 害者手帳・障害者手帳・戦傷病者手 | 帳・被爆者健康手帳所持者とその |
| 介 | 護者(一名) | 印刷: 川北印刷株式会社 | |

http://www.kochi-bunkazaidan.or.jp/~rekimin/
Eメール: rekimin@kochi-bunkazaidan.or.jp